

## 2014年 グループ別発表 内容

### ①召命の土壌とは何か、その土壌をどのように作るか

#### 第1班

・召命は神の恵みであり、その恵みに人が具体的に応える所（場・雰囲気・姿）に土壌がある。具体的には信仰者（司祭、修道者、信徒）の生き方、教会、学校、修道院などである。

#### 第2班

・喜びにあふれた共同体。私たちがまず福音的喜びに溢れ、他の人たちの為に祈り、メディアを通して人々に喜びを伝える。

#### 第3班

・教会、共同体、私たちのあり方・信仰者が確信を持ち、その信仰を育て得るか否か。  
・祈りの大切さ・高齢司祭、修道者の生きた喜びの姿・

#### 第4班

・人間同士のつながり。祈り、体験、分かち合う、食卓の囲み。ITの利用。家庭における司牧。誰もが語り合える場。  
・召命に命をかける観想者の祈りを願う。

#### 第5班

・その人をその人として受け入れる状況、雰囲気が教会にある。青少年への継続的な関わり。家庭教育。  
教会における母性性の成熟

#### 第6班

・つながり。キリストのとの出会い。祈りの場。み言葉に基づく活動。  
・共同体（家庭、教会）：暖かい雰囲気。

#### 第7班

・家庭的共同体・共に食する・分かち合う・  
・弱者、困難者を助ける体験・  
・キリスト者の霊的養成と学び  
・メディアの活用  
・若者に同伴できる人の養成

#### 第8班

・ボランティアの体験と分かち合い。子供が祈り、信仰の雰囲気の中で育つこと。  
・受け入れ、もてなしの心。自由に出入り出来る場。

#### 第9班

・若者の居場所となる教会作り。  
・キリスト者全員が召命の土壌・キリスト者の信仰的雰囲気・絶えざる回心と刷新が不可欠

#### 第10班

・霊的雰囲気に満ちた教会共同体を作ること。  
・キリスト者が豊かな関わりを生きること  
・祈りー体験ー分かち合いを繰り返す。

### 第11班

- ・祈りと分かち合いの場として、修道院を使わせる。
- ・われわれ自身の変容が不可欠。召命の土壌は場だけではない。

### 第12班

- ・司祭・修道者の奉仕の模範、祈りの模範、後ろ姿が土壌である。

### 第13班

- ・信仰の根をはる場・環境・雰囲気

## ②土壌作りの妨げになっているものは何か

### 第1班

- ・信仰者の生きる姿が、社会の価値観に覆われるとき。

### 第2班

- ・喜びのない司祭、修道者の姿・ゆとりなさ
- ・情報の発信の不足

### 第3班

- ・司祭・修道者の姿・あり方。修道者が幸せに見えないこと。
- ・教會的価値観が失われている。親の優先順位が教會にない。

### 第4班

- ・多忙さ

### 第5班

・問題の重大さが解らない。緊迫感がない。神任せ。祈りがない。召命を司祭、修道者に限定して考えている。

### 第6班

・余裕がない。先入観がある、十分に他に聴けない。自分の弱さを晒せない。世代の壁。新しい時代についていけない自分。自分に固執し変え得ない。

### 第7班

- ・祈りの欠如：キリストに生き生き生きることができない。
- ・忙しさ：若者に聴き、関わる時間がない。
- ・事業に福音の力が流れていない？
- ・現代の経済中心主義、競争社会

### 第8班

- ・創造性を発揮できる環境がない。
- ・自由な信仰が育たない社会環境
- ・上から視線で人を見る教會の雰囲気
- ・社会の価値観に影響されている。
- ・教會が直面する問題への無関心。

### 第9班

- ・嘆き、文句、頑固さ

### 第10班

- ・司祭・修道者が本物に変容できていない。
- ・敷居の高い教会・だれでも出入りできない教会
- ・教会が直面している問題を意識していない。他人事

#### 第11班

- ・司祭・修道者・信徒のそれぞれの中において、構成員の年齢差が大きい。
- ・家庭に宗教の土壌がない。
- ・学校で宗教教育が難しくなっている。
- ・今までの生き方に固執しており、変化を望まず衰退している。
- ・高齢者に「喜び」がないこと

#### 第12班

- ・現代社会の価値観が、信仰生活を難しくしている。
- ・司祭・修道者の忙しさ・疲労感・魅力喪失。

#### 第13班

- ・修道会や小教区が自分たちのことを中心に考える傾向・他への無関心と非協力性

### ③日本教会が優先して取り組むべき課題は何か

#### 第1班

- ・「祈りと分かち合い」に基づく、一つとなった「教会共同体づくり」。

#### 第2班

- ・教会が祈りの場、交わりの場となること・教会が大切にすることを発信すること

#### 第3班

- ・家庭における信仰教育。外国籍の人々を教会に受け入れる。司祭・修道者・信徒の協力

#### 第4班

- ・創立のカリスマに生きる。誰もが集まり、受け入れられる場を作る。

#### 第5班

- ・召命を語る場が教会に欲しい。召命のための真剣な祈り。司祭・修道者の堅固な霊性と魅力ある価値観。教会の敷居を低くする。教会の必要性を青少年にも感じとらせる。霊的同伴者の必要性。泣き部屋の廃止。シスターズ・カフェを開店。

#### 第6班

- ・足を運ぶ：家庭訪問、病人訪問など。永続する真理を打ち出す。変えるべきは変える勇気を。

#### 第7班

- ・キリスト者の霊的養成と霊的同伴者、霊的指導者の育成。
- ・修道会の事業の手放しに関する一大識別と決心
- ・若者の信仰教育と結婚講座の充実、子女の出産の促進。

#### 第8班

- ・バザー、活動のみならず、霊的養成（祈りなど）に力を注ぐ。「教会の祈り」を教会全体で行う。
- ・若者たちの「自分探し」が出来る環境を作る。ボランティア、種々の研修などの場提供。
- ・召命チーム集まりを各小教区でも行う。
- ・若者が受け入れられているという実感を持てる場を作る。

#### 第9班

- ・キリストの輝き、喜びを伝える・・親近感を醸し出す人柄となる。
- ・活き活きした主体的行為が生まれる共同体を作る。
- ・ゆとり・・ゆとる・・
- ・困難・逆境こそが大事なプロセスであるという自覚
- ・召命の領域で超教区、修道会の協力体制づくり。

#### 第10班

- ・教会の敷居を下げる。
- ・親への信仰教育を通して、親自身に本物に触れさせること。

#### 第11班

- ・キリストと深く結ばれること・・黙想の重視。共同体づくり。リーダーの育成。
- ・深いところで、真の霊的な交わりができる場を作る。
- ・高齢者修道者、司祭が「喜び」を「平安」を持つこと。

#### 第12班

- ・信仰的雰囲気のある共同体・・暖かさに満ちた共同体
- ・ITを十分に使う
- ・高齢シスターには使命がある。高齢シスターであっても、その現存が場の雰囲気を変える。

#### 第13班

- ・人々、若者の居場所づくり。